

産科医療補償制度 第101回原因分析委員会 議事要旨

日時：2022年11月30日（水）16時00分～17時10分

場所：公益財団法人日本医療機能評価機構 会議室

出席者（委員）：石川浩史、茨聡、上塘正人、川田綾子、楠田聡、佐藤昌司、
下屋浩一郎、鈴木俊治、鈴木利廣、関沢明彦、豊田郁子、
前田津紀夫、馬目裕子、村越毅、吉田幸洋（敬称略）

議事概要：

1) 原因分析委員会における報告書の確認・承認状況等について

- 2022年10月末時点で累計3,406件の原因分析報告書が承認されたことが報告された。また、コロナ禍の影響もあり審査結果通知から報告書送付までの期間が長くなっていること、そのため、早期に報告書作成期間を概ね1年に短縮できるよう取組みを進めていること等が報告された。
- 同一分娩機関での複数事案目の原因分析の結果、同じ診療行為等において医学的に厳しい評価が繰り返された場合に一層の改善を要請する「別紙（要望書）」対応について、2022年10月末時点の累計実施件数126件、改善要望項目としては「胎児心拍数陣痛図の判読と対応」が最も多いこと等が報告された。

2) 原因分析報告書の公表・開示および原因分析のデータ等を活用した研究等の状況について

- 原因分析報告書要約版は、現在、同意取得を行うことなく全件一律に公表を実施していること、および、以前同意取得を行った時期に不同意の意思表示を受け未公表としていた要約版については、改めて公表に理解を求める取組みを行い、取組み継続中の数事例を除き公表済みであることが報告された。
- 原因分析報告書全文版（マスキング版）については、開示方法を変更した2015年11月以降2022年10月末までに13件の利用申請で延べ3,296事例の報告書を開示したこと等が報告された。
- 産科制度データに関し、医学系研究においてより利用しやすくするために、新たな開示項目として、原因分析報告書の「脳性麻痺発症の原因」のデータ追加を検討しており、現在、事務局にてデータ抽出項目やデータ抽出方法の整理を進めていることが報告された。

3) 部会審議における確認事項等

- 原因分析報告書上の医学的評価のあり方等に関して、原因分析の質および均質性を維持するために、原因分析委員会としての見解を確認・整理した方がよいと提起された事項について、原因分析委員会としての考え方が整理された。

4) 「診療体制等に関する情報」における入手データの見直しについて

- 原因分析、再発防止に活用するための分娩機関からのデータ収集に用いる「診療体制等に関する情報」フォームに関し、原因分析に必要なデータ項目は削減しないものの、全体としてはデータ項目を削減する方向で見直しを行う方針について審議され、原因分析委員会として了承された。

以上